

現代美術展 Mirage

同志社大学 京田辺キャンパス各所において、
学園祭の期間にあわせて現代美術作品の展示が行われた。

主催：同志社大学 S-cube

ディレクション：宮下 忠也

アーティスト：牛島光太郎 林勇気宮下忠也 山岡敏明 ヤマガミユキヒロ

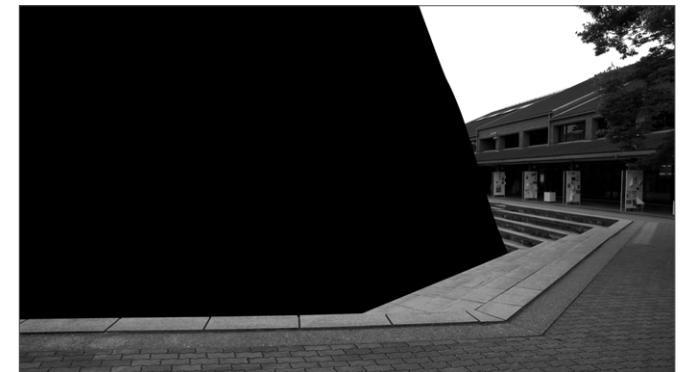
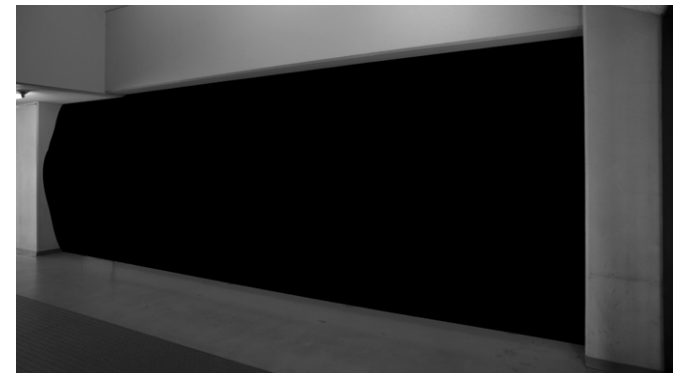


事前に校内でばらまかれた予告チラシ 2009 更紙に輪転機プリント





Photoesquisse for GUTIC STUDY 18 人の目に認識できない遅さで変化していくグチックの映像をm期間中ホール前モニタで再生 2009 FLASH アニメーション



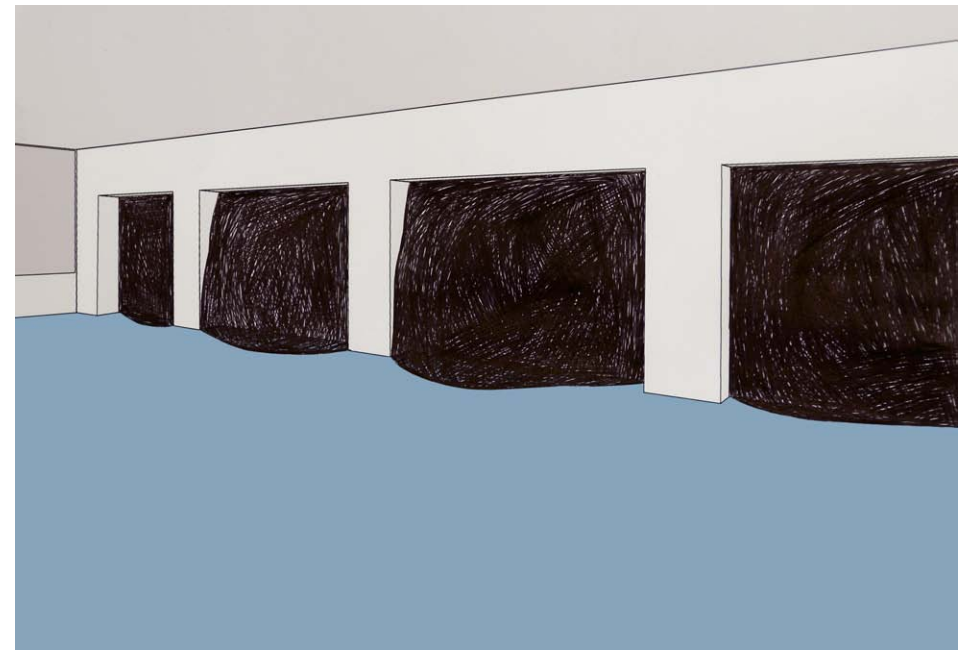
我々は、現実をそのまま受け入れてはおらず、日常のあらゆる出来事に対して、勝手な憶測を織り交ぜながら世界を再構成し捉えています。

私が追いつけている黒い塊「グチック」もまた、観る側のイメージネーションによって脳裏に立ち現れる、現実と虚構の入り混じった存在、いわば「絵に描いた餅」にすぎません。しかし、京田辺校地各所に現れる映像や、KD106 教室の壁面に突出しているグチックの断片を介して知覚された瞬間、その「絵に描いた餅」は、世界のどこかにある現実の餅よりも確かなものとして、みなさんの認識世界の中に存在しているのです。

We do not catch reality plainly, but we catch the world that we constituted again while interlacing a selfish supposition for every usually event.

Black lump "GUTIC" which I continue searching is existence that reality and a fiction mingled to appear in the mind by the imagination of a watcher. It is, so to speak, only "a castle in the air"

However, there is the "castle in the air" more surely than the real castle in somewhere at a moment felt through a piece of GUTIC protruding from the wall surface of the KD106 classroom and a picture appearing on the display in some spots of Kyotanabe campus.



Esquisse for GUTIC STUDY18 in Mirage @ DOSHISHA UNIV. 2009 インクジェットプリントにボールペン



GUTIC STUDY 18 in Contemporary ART Exhibition Mirage @ Doshishya UNIV. Kyotanabe Campus

校舎の外にそびえ立つグチックの一部が、そのふもとにある教室内部に入り込んでいる想定インスタレーション。
幻の量塊であるグチックの一部であるため、実際は壁と床に漆黒の塗料が塗られているのみで、物理的なボリュームは実在しない。
観者の認識の中で、膨らみとして形作られる。



Fragments of GUTIC -- Entrance





山手町
The Mountain View (2018) 100cm x 100cm
oil on canvas



山手町
The Mountain View (2018) 100cm x 100cm
oil on canvas



Photoesquisse for GUTIC STUDY 18-01 2009 ラムダプリント、アクリルダイフィット



KD-102 教室の外側に広がっているグチックの形を描くドローイング。



